

令和3（2021）年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立瓜破小学校

令和4（2022）年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国学力・学習状況調査において、基礎・基本及び活用に関する問題の正答率に課題があると見受けられる。このことから語彙力・読解力・伝え合う力などの言語活動の充実を図ることが大切だと考える。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 90% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 3 年度の全国学力・学習状況調査における活用に関する問題の正答率 8 割以上の児童の割合を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
○小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を 85% 以上にする。
○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85% 以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
○小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価「C」以上の児童の割合を 50% 以上にする。

学校園の年度目標

- 年度末の児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 60% 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小中学校）

- ・「いじめ」の定義を共通理解し、学校全体でいじめを認知した場合はすぐに対応し、解決するようにつとめてきた。解消した割合は、11月末時点では、99%であって。その後も認知したものについてその都度教職員で情報共有し、対応をするようにしている。
- ・年度末学校アンケートで「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は86%であった。目標の85%を上回っている。
- ・年度末の学校アンケートで、暴力行為を複数回行う加害児童数は0（12月末時点）で、前年度も0であった。
- ・年度末の学校アンケートで、新たに不登校になる児童の数は3名（0.900%）であり、前年度も4名（1.12%）であり改善している。

学校園の年度目標

- ・年度末児童アンケートで「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は89%で、目標の85%を上回っている。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小中学校）

スマールステップを意識した授業づくりを行い、全校でビジョントレーニングやコグトレを活用した結果、少しずつではあるがつまずいている児童が減ってきてている。また、ICT機器を活用した学習活動も可能な範囲で行い、心配で欠席している2年生以上の児童についても積極的に教科の授業の様子を配信するようにした。経年調査の標準化得点は6年生では2.1ポイント、4年生では1.9ポイント向上し、5年生では±0となり、市平均7割に満たない児童については大幅に改善した。ただ、算数科については依然課題は残っているため、基礎基本の定着を目指し、習熟度別学級分割指導を中心に、個別の指導・助言の充実を図り、学びサポーターや学校力UPコラボレーターなどと協力しながらよりていねいな個別指導を実施していく予定である。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、本年度は校舎改築に伴い運動場が1/4程度の広さしかなく実施することができなかった。新型コロナウイルス感染症対策に加え、校舎改築工事の影響で児童が伸び伸びと体を動かす機会は少なかったが、児童が目標設定を行って運動できるような授業内容の工夫や、休み時間の学年割り振りによる遊ぶ時間と場所の確保等、児童が進んで体を動かせるような取り組みを可能な範囲で行った。

学校園の年度目標

昨年度から継続して週末の家庭学習に、自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえる「瓜っ子学習」に取り組んだことによって、計画的に学習できる児童が多くなってきた。テストの範囲や実施日等も示したことで、毎日の自主学習（家庭学習）においても見通しをもって学習に取り組むことができる児童が増えてきた。年度末の児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は昨年度58%から67%と児童の意識は高まっている。学校全体として自ら進んで学習に取り組む児童の姿は増えてきた。一方で、算数科の学力にはまだ課題が残り、基礎基本の未定着の児童もみられる。ビジョントレーニングやコグトレを活用した本年度の取り組みを継続していくことが定着を目指し、来年度も引き続き、学習意欲をさらに喚起させ、学びの力のさらなるを充実させたい。

大阪市立瓜破小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を85%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「自分を大切にしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1：安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>○清掃活動への意識を高め、ただし清掃用具の使い方を身につけ主体的に清掃活動に取り組めるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>○校内アンケート調査で「ていねいにそうじをしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学校や社会のきまりを守ることや、場に応じたあいさつができるように、毎月生活目標を設定して児童に意識させる。</p> <p>○いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努める。</p>	
<p>指標</p> <p>○校内アンケート調査で「先生や友だち、地域の人たちにあいさつしている。」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p> <p>○児童理解を深める研修を月1回行う。</p>	B
<p>取組内容③【施策2：道徳心・社会性の育成】</p> <p>○多様な特性への相互理解を深め、一人ひとりの自尊感情を育てていく。</p> <p>○芸術鑑賞を実施する。</p> <p>○アンガーマネジメント・「7つの習慣」などの研修・取り組みを年1回行う。</p>	A
<p>指標</p> <p>○校内アンケート調査で「自分を大切にしている」の項目で、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。</p>	

取組内容④【施策3：地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】

- 家庭・地域との連携を図り、保護者が安心して学校行事に参加できるように計画・実施していく。
- 多様な体験活動を実施していく。

指標

- 令和3年度末の保護者アンケートにおける「学校は、学校行事が保護者の参加しやすいように配慮している。」の項目で、肯定的な回答をする保護者の割合を85%以上にする。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、11月30日現在解消した割合は99%であった。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、学級指導、朝会での指導などの継続した指導により「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を86%で、1ポイント上回った。帽子を被っていない児童や、寒さからポケットに入れて登校している児童が増えた。防寒着の決まりなど、冬の身だしなみについて周知する必要がある。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数は0であった。
- 年度末の校内調査において、保護者との連絡を継続して行った結果、不登校が改善した児童は3名、新たに不登校になった児童は2名であった。

【年度目標】について

全市共通目標（小中学校）

- 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合は、86%で1ポイント上回った。

学校園の年度目標

- 校内調査における「自分を大切にしている」の項目について、指導の際の肯定的な声掛けや保健指導、更には「7つの習慣」の取り組みなどの結果、肯定的な回答をする児童の割合は、89%で4ポイント上回った。

取り組み内容

- ①校内調査における「ていねいにそうじをしている」の項目では、肯定的な回答の割合が91%で、6%上回った。掃除の仕方、用具の使い方を指導し、児童と一緒に掃除を行うなど、日々の清掃活動での丁寧な指導がこの結果につながったと考えられる。全体的にははじめに取り組んでいる児童が多いが、そうでない児童のために、引き続き、丁寧な指導が必要とされる。
- ②校内調査における「先生や友だち、地域の人たちにあいさつしている。」の項目では、肯定的な回答をする児童の割合が85%と、10%上回って達成することができた。毎朝の校門での教職員のあいさつや児童朝会、運営委員会の児童によるあいさつ運動などさまざまな取り組みを行ったことで、あいさつが習慣となってきており、良い成果につながったと考えられる。大きな声での挨拶は控えているが、その分会釈をするなど、場に応じた挨拶をしている児童もいる。また、児童理解研修を毎月1回行った。職員全員が情報を共有し、協力して児童一人一人を指導・支援していくことが重要である。いじめについて、日々の聞き取りやいじめアンケート等を継続的に行い、児童の実態の把握と解消に努めた。また、2学期からは、「心の天気」の活用にも取り組んできた。児童の中には友だちに対して傷つけていたり言葉を使っていることがあり指導している。
- ③校内調査で「自分を大切にしている」の項目では、肯定的な回答が89%で4ポイント上回った。多様性を理解できるように、各学級で話し相互理解を深めた。職員ではアンガーマネジメント・

「7つの習慣」などの研修・取り組みを年1回行った。また、児童朝会で校長が「7つの習慣」の継続的な講話をしたこと、教職員と児童間で「信頼貯金」や「いいタッチ」「悪いタッチ」など共通言葉ができ、そろって指導できた。11月には芸術鑑賞を実施し、日本の伝統文化に触れることができた。

④校内調査における「学校は、学校行事が保護者の参加しやすいように配慮している。」の項目に対して肯定的な回答は89%で、目標を4ポイント上回った。少しでも体験的な学習ができるように、修学旅行や卒業遠足の行程を見直した。また、日程をずらしたり、学年を分けたりして、保護者が体育参観に参加しやすいようにした。さらに、作品展も参観の日程に合わせ、展示場所も工夫したこと、実施することができた。

次年度への取り組みの方向性

- ①清掃用品の使い方や掃除の仕方を、年間を通して指導してきた結果、担当場所以外でも清掃をしようとする様子が増えてきている。新校舎の掃除分担や方法、児童のトイレ掃除指導などを検討していく必要がある。
- ②あいさつ週間などの取り組みは継続して行い、挨拶の指導も継続する。校内アンケート調査「先生や友だち、地域の人たちにあいさつしている。」の項目では、肯定的な回答は10%上回った。次年度は「肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にする」などの指標設定が必要である。また、冬の身だしなみについて寒くなる時期に全家庭に手紙を配布する。今年度あったいじめ事案について、当該学年だけでなく、学校全体の課題と捉える。職員連絡等適宜適切に職員間に情報を伝え、学校全体として協力・対応に当たれるようにしていく。いじめの早期発見・早期対応については、一人の教職員で抱えこまず、早期に学年会で報告連絡相談をする。また、生活指導・管理職に報告連絡相談をし、いじめ対策委員会など既存の組織をより機能させていく。月1回の児童理解研修は、児童名と顔が一致できるようSKIPにある児童生徒ボードから児童写真を見ながら研修を行う。伝達する際は、必要に応じて事前に要点を整理し文章にまとめ、年間を通して児童がどのように変化したかがわかるようにする。学年会・学年間で児童理解をこまめに行う。「心の天気」などの児童の変化への対応（毎日の点検）の工夫を図る。
- ③多様な特性への相互理解をさらに深められるように、児童の呼称など教職員の研修を継続して行う。
- ④児童・保護者の「安心・安全」を最優先に考えた結果であり、今後も「安心・安全」を一番に考え学校行事を設定していく。

大阪市立瓜破小学校 令和3年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価「C」以上の児童の割合を50%以上にする。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○年度末の児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>○学習に取り組む前提となる力（見る力・運筆の能力等）を高めるために、全校でビジョントレーニングに取り組む。</p> <p>○スマールステップの授業を行い、児童一人ひとりに自分自身のつまずきを克服できるようにする。</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>	A
<p>取組内容②【施策5：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取り組み】</p> <p>○「計画→学習→ふりかえり→計画」のサイクル、「瓜っ子学習」（家庭学習）に全校で取り組み、自分で学習する習慣を身に付けられるようにする。</p> <p>指標</p> <p>○児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を60%以上にする。</p>	A
<p>取組内容③【施策7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○体育科の授業でも、ホワイトボードや副読本等を効果的に活用して、めあてを意識した学習活</p>	B

<p>動を行えるようとする。</p> <p>○運動を楽しみながら行えるように学習活動や集会等で体を動かす機会を工夫する。</p> <p>指標</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価「C」以上の児童の割合を 50 %以上にする。</p> <p>○児童アンケートにおける「体を動かすことが好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。</p>	
<p>取組内容④【施策 7：健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>○保健だよりの発行や保健指導を通して、健康の大切さを指導し、家庭にも啓発する。</p> <p>○給食の時間や栄養指導を通して、望ましい食習慣を身につけることができるよう指導する。</p> <p>指標</p> <p>○「手洗いタイム」や「けんこうチャレンジ週間」等を実施し、児童アンケートにおける「手洗いをきちんとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>○衛生に関する指導や食に関する指導を月 1 回以上行う。</p>	<p>A</p>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標】について</p>
<p>全市共通目標（小・中学校）</p>
<p>○小学校学力経年調査の結果がまだ出でていないため、標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上できたかどうかは現時点ではわからない。(1/24 現在)</p> <p>○小学校学力経年調査の結果がまだ出でていないため、正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少できたかどうかは現時点ではわからない。(1/24 現在)</p> <p>○小学校学力経年調査の結果がまだ出でていないため、正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加できたかどうかは現時点ではわからない。(1/24 現在)</p> <p>○小学校学力経年調査の結果がまだ出でていないため、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加できたかどうかは現時点ではわからない。(1/24 現在)</p> <p>○コロナや校舎改築等の影響で全ての種目を実施することはできていない状況であった。実施種目のみの全国体力・運動能力、運動習慣等調査のデータでは、「C」評価以上に相当する児童の割合が約 50%だった。</p>
<p>学校園の年度目標</p>
<p>○全校で瓜っ子学習に取り組み、普段の授業でも、学習の計画を立て、振り返りを行う場面を設定したことで、年度末の児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は 67%であった。</p>
<p>取り組み内容</p>
<p>①全校でビジョントレーニングに取り組んだことによって黒板の字を見る力が身についた。また、練習問題やテストのやり直しをその都度取り入れることで、児童一人ひとりが自分自身のつまずきを克服できるようになってきた。授業で電子黒板やタブレット、NHK for school などの ICT を活用し視覚的にわかりやすく工夫したことで、児童の学習意欲が高まった。年度末における児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」の項目で肯定的な回答をする児童の割合は 87% であった。</p> <p>②昨年度から継続して瓜っ子学習に取り組んだことによって、計画的に学習できる児童が多くなつ</p>

てきた。テストの範囲や実施日等も示したことで、毎日の自主学習（家庭学習）においても見通しをもって学習に取り組むことができる児童が増えてきた。年度末の児童アンケートにおける「自分で学習計画を立てて学習し、ふりかえりを行い次の学習に活かそうとしている」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は67%であった。

③体育科の学習では、ホワイトボードや副読本、学習カードやPowerPoint資料などを効果的に活用した。その結果、めあてを意識した学習活動や視覚的にわかりやすく資料提示ができた。また、スマールステップ（小さな目標の達成を積み重ねること）ができるような学習カードを活用し、学習をふり返ることができた。年度末の児童アンケートにおける「体を動かすことが好き」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は84%であった。また、新体力テストは全種目を実施できなかつたが、5種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とび）より、「C」評価以上に相当する児童の割合が約50%であったことから、指標の数値に達していると考えられる。

④けんこうチャレンジ週間では、コロナウイルス感染症拡大防止の観点をふまえ、手洗いやハンカチの携行の項目だけでなく、マスク・帽子・エプロンの着用についての項目を設け、より衛生的に、安全に喫食ができるように意識づけをした。手洗いタイムで曲を流すことで、より効果的に、自主的に手洗いを行っている様子が見られる。年度末の児童アンケートにおける「手洗いをきちんとしている」の項目で肯定的な回答をする児童の割合を92%であった。また、月一回保健だよりを発行し、養護教諭や学級担任が保健指導で健康の大切さを指導したり、ホームページで家庭に啓発したりした。食に関する指導については、栄養教諭より、それぞれの学年に応じた内容で指導を実施した。日々の給食時間には学級担任より、給食カレンダー・けんこうチャレンジ週間に給食委員会の児童が作成した資料等を用いて指導を実施している。

次年度への取り組みの方向性

①ビジョントレーニングやコグトレを続けて、見る力が少しついた児童が高まっていると考えられるので、来年度も継続して行っていく。児童がビジョントレーニングの効果をより実感できるように、成長を確認する方法を改善する。

②学習においては、自主学習への促しを継続していく。また、児童の計画の妥当性について、指導を重ねていく。例えば、学習の選択肢を提示する等の工夫が考えられる。

③様々な制限がある中、できるだけ継続した取り組みを行っていく。体育科の学習では、めあてを意識した学習活動をスムーズに行える環境をつくる。来年度も、年度当初は運動場が狭いので、学習活動も含め、体を動かす機会を工夫していく。また、児童に対して、体を動かすことの大切さや楽しさについて声かけをしていく。

④引き続き、マスクや給食の帽子、エプロンの着用について、児童に取り組みの意味を伝え、正しく身に着けられるように指導を行う。新型コロナ感染症の感染拡大も心配されるので、さらに手洗いを徹底できるように指導する。引き続き、ホームページ保健指導や栄養指導の様子を掲載し、保護者や地域に発信する。けんこうチャレンジ週間のチェック項目については、コロナウイルス感染症拡大防止の観点もふまえ、たとえば「喋らずよくかんで食べた」等、黙食を啓発するための項目を追加することも、今後の状況に応じて検討していく。